

《今朝の聖書から》

“ラディカル”という言葉があります。もともとは化学や社会科学で用いられる言葉でしょうか。“多感”とか“よく反応する”という意味でしょう。放蕩息子の喩えに出てくる弟も、心に思うことを実行する性格だったようです。自分の思いを押さえつけて、何時も憂鬱な思いを抱いているよりは“すぐ行動する”生き方と言えるでしょう。最初彼は自分のおかれている立場を考えました。同じ父の子でありながら、“自分には兄（長男）がある”と思ったようです。長男が圧倒的な力を父から引き継ぐ時代でしたから、この弟は、先をよんで、不利な立場にあることに気付き、父に財産分けを申し出ることとなります。そして家を飛び出し、生活を営むための知識も無いまま、無一文になってしまいます。使い果たしてしまったのです。彼の思いは“今日をどのように生き延びようか”というところまで、現実味を帯びてくることになってしまいます。今の世の中でも、何か聞いたことがあるように、よく分かる喩えです。多感なこの青年は、父のことも考えました。雇われている人の一人として構わないから、あそこに帰ろう、と決意をして、謝罪の言葉まで用意して、帰って行きます。私たちも、謝罪の言葉が用意できなくて帰れないことって、あるのではないのでしょうか、しかも相手は父なる神に対してだったのです。しかしそれらの心配をすべて帳消しにして、彼を迎えてくれたのが父だったのです。私たちも、新生の恵みに与るとき、“あなたの罪は赦された”と宣言を受けていることを忘れないようにしましょう。またこのことは父のよろこびでもありました。このところで聖書の主役は、弟ではなく父になっていることに心を留めましょう。“いなくなっていた者（もともと彼のものであった者）が帰ってきた”だといいます。これが神様の贖罪なのです。33節に一節付け加えてみましょう。“そこで兄も、父の愛を知って、共に弟を迎えた”となるでしょう。“弟がそんなに迎えられるのなら、私も遊ぶためにお金を使おう、と兄は思いついた”とは、聖書を読まないと思います。このように聖書は、私たちに、よく考えること、神の言葉によく反応すること、恵みに対して多感であることを、期待しているようです。無限の財産を持っておられる神は、子たる身分（ローマ8：15）を何人に与えたからといって、一人の相続分（救い）が、減ってしまうようなことを問題にされないのです。子でありながら、帰れないでいる人がいたら“アバ父よ”と、今帰りましょう。

週報

2007年 9月 16日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

| | | |
|---------|---|----------|
| 教会学校 | 毎日曜日 | 午前 9:00 |
| 礼拝式 | 毎日曜日 | 午前 10:30 |
| | (聖餐式 第一日曜日) | |
| 夕礼拝式 | 毎日曜日 | 午後 7:00 |
| エステル会 | 毎水曜日 | 午前 10:30 |
| 聖書研究祈祷会 | 毎水曜日 | 午後 7:00 |
| ホームページ | http://kusanagi.church.jp/ | |

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸